

小学校通級指導教室における合理的配慮学習プログラム開発

○北村和美

平澤紀子

（滋賀県米原市立米原小学校）（岐阜大学大学院教育学研究科）

KEY WORDS：小学校 通級指導教室 合理的配慮

（目的）

合理的配慮については、個別の指導計画に記載する必要があるが、児童本人及び提供する指導者の理解が十分ではない（文科省, 2012）。その課題に対し、特別支援学校高等部の生徒を対象にした合理的配慮学習がある（三原他, 2018）が、小学校段階の検討はなく、指導者側の援助提供も未検討である。そこで、本研究では、小学校の通級指導教室における本人の援助要請学習と担任による援助提供を合わせた合理的配慮学習プログラムの検討を目的とする。

（方法）

（1）倫理的配慮

大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻研究倫理ガイドラインに基づいて、管理職・対象者本人・保護者に対し、文書により研究の目的、方法、結果の公表、個人情報情報の厳守を説明し、許可を得た上で進めた。

（2）場所・対象者・時期

公立 A 小学校通級指導教室において在籍児童 3 名（小 5：2 名、小 6：1 名）と児童の学級担任 2 名を対象として、X 年 4 月～12 月まで実施した。

（3）小学生用援助要請学習テキストの作成

三原他（2018）を基に作成した。全 7 回とし、第 1 回～第 3 回は「自己理解学習」、第 4 回～第 5 回は「権利学習」、第 6 回～第 7 回は「援助要請のやり方」とした。

（4）学級担任との連携

「合理的配慮に関わるアンケート」を基に、援助提供の内容や方法を助言した。

（5）評価分析方法

①対象児の変容

担任による対象児の援助要請行動の記録を分析した。「児童用一般性セルフエフィカシー尺度」を用い、事前と事後の対象児の自己効力感の変化を分析した。

②担任の変容

事前と事後に「合理的配慮に関わるアンケート」を実施し、担任の合理的配慮に関する意識と実践の変化を分析した。対象児の援助要請行動に対して担任が行った援助提供の記録を分析した。

③社会的妥当性の評価

対象児と担任、保護者に対して援助要請学習の目的、方法、結果に関する 5 項目・4 件法の事後アンケートを実施し、妥当性を分析した。

（結果）

（1）対象児の変容

援助要請学習を進めるに伴い、対象児 3 名ともそれぞれのやり方で援助要請行動をするようになった。対象児 A はヘルプカードの使用についての抵抗感が大きく、対象児 B はヘルプカードを使うことで援助を求めるきっかけが見つかり、対象児 C はヘルプカードではなく自分のやり方で要請を求めているため、それぞれが納得した内容や方法で進めた。

図 1 に、対象児 B の援助要請行動の変化を示した。援助

要請学習が開始された 6 月 8 日から、対象児 B はヘルプカードを使用し始め、その後は援助要請行動が増加した。

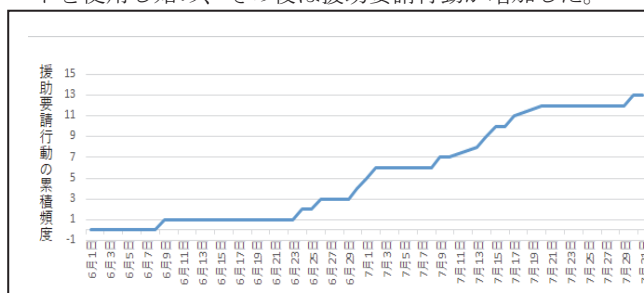


図 1 対象児 B の援助要請行動の変化

「児童用一般性セルフエフィカシー尺度」の結果は、事前は対象児 3 名とも「非常に低い」か「低い傾向」だった。事後には、対象児 3 名とも「低い傾向」に変化した。対象児 A は、「チャレンジ精神」が「非常に低い」が「低い傾向」に変化した。対象児 B と C は大項目に変化はなかったが、下位項目の評価点は、対象児 B は「安心感」が増加し、対象児 C は「チャレンジ精神」が増加した。

（2）担任の変容

「合理的配慮に関わるアンケート」結果は、事前は 2 名の担任は対象児の指導や支援について非常に困っており、1 名は合理的配慮の理解が十分でなかった。事後には、対象児の援助要請行動に応じるようになり、対象児への支援の見通しが得られ、自ら必要な支援を工夫したことが指摘された。

（3）社会的妥当性の評価

援助要請学習のテキストはわかりやすく、ヘルプカードの使用で困り感が減り、役立ったか等に関して対象児は「はい」「どちらかといえばはい」の肯定的回答であった。担任、保護者もわかりやすさや有用性等を肯定的に評価した。

（考察）

援助要請学習を進めるに伴い、対象児 3 名はそれぞれのやり方で援助要請を行うようになり、自己効力感も向上した。担任もそれに応じるようになり、学校生活に好影響がみられた。一方、対象児の援助要請学習の状況は様々であった。本結果から、本人のニーズに合わせた進め方、対象児が担任と相談できる関係性が重要であり、通級指導教室担当者が担任と連携して、成功体験をもてるようにする必要がある。

（文献）

- 1) 三原彰夫・漆間可奈子・衛藤裕司（2018）軽度知的障害生徒のための本人参画型の合理的配慮の提供 (4) 日本特殊教育学会第 57 回大会（2019 広島大会）発表論文集ポスター発表 P7-08.
- 2) 坂本裕（2017）合理的配慮をつなぐ 個別移行支援カルテ. 明治図書.
(KITAMURA Kazumi, HIRASAWA Noriko)